

ATHENA SOURCES IN THE HISTORY OF WORLD WAR I

# AFRICAN-AMERICAN SOLDIERS IN WORLD WAR I

第一次世界大戦のアメリカ黒人兵



第一次世界大戦に従軍したアメリカ黒人についての記録。  
大戦後の政治社会的な変化にも関連する重要資料。

別冊解説・藤永 康政(山口大学准教授)

## Part 1: Histories 全3巻

ISBN 978-4-86340-223-2 ・ A5判 ・ c. 1600 pp., ill.

定価 本体 62,000円+税 ▶2015年9月

## Part 2: Witness Accounts 全4巻+別冊解説

ISBN 978-4-86340-224-9 ・ A5判 ・ c. 1650 pp., ill.

定価 本体 72,000円+税 ▶2016年10月

Athena Press



## 本書について

アメリカ黒人の、人種平等への道のりにおいて重大な局面であった第一次世界大戦への従軍の状況について、性格の異なる著作を集めて、検討の材料とした資料集です。

第一次世界大戦への、アメリカの参戦方針に対しては黒人指導者のなかでも対応が分かれるところでしたが、戦争への貢献で人種平等の道を切り開く期待が寄せられました。結果、40万人ほどの黒人が兵役につきますが、そのほとんどが軍隊内で差別的な扱いを受けたことは広く知られるところです。また巷間においても黒人兵の活動について差別的な評価が流布されていました。

その一方、戦時中の黒人兵の実際の状況を、正確に伝えようとしたり、表立った報道の類と異なる内容の回想を示した書籍が存在します。それぞれ執筆された背景に注意を払わねばなりません、いずれも基本的に現場に即した内容で、写真を多く掲載していて、アメリカ黒人史の重要資料です。

また第一次世界大戦の戦前から戦後にかけての政治状況(ブッカー・T・ワシントン、NAACP、“New Negro”、ガーヴィ主義)、社会状況(KKKの再出現、帰還兵の職・住の問題、1919年の「赤い夏」)、文化状況(ハーレム・ルネッサンス、「狂騒の20年代」)にも絡んだものでもあり、広くアメリカ史研究にとっても価値のある重要資料です。



## Contents

### Part 1: Histories

第1巻から第3巻は、第一次世界大戦に参戦した黒人兵の状況を「史実」として記したもので、いずれも著者は黒人、刊行年も1919年と揃っている。写真を多数用いている。どれも戦線での黒人の体験を、誇張して描いているくらいがあり、英雄的な行いを強調するあまり苦難の状況が薄れて書かれている箇所がしばしば見受けられる。

黒人への差別が危機的な状況にあるなか、黒人がいかに貢献しているかを強調して、状況の改善を目指そうとしたものと考えられる。

#### Volume 1

### W. Allison Sweeney *History of the American Negro in the Great World War* (1919)

Spiritual Emancipation of Nations • Handwriting on the Wall • Militarism and Autocracy Doomed • Awakening of America • Huns Sweeping Westward • The Hour and the Man • Negroes Respond to the Call • Recrudescence of South's Intolerance • Previous Wars in Which Negro Figured • From Lexington to Carrizal • Hour of His Nation's Peril • Negro Slackers and Pacifists Unknown • Roster of Negro Officers • Across Dividing Seas • Over There • Through Hell and Suffering • Narrative of an Officer • Blood of Black and White in One Rivulet • Comrades on the March; Brothers in the Sleep of Death • Mid Shot and Shell • The Long, Long Trail • Glory That Went Come Off • Nor Storied Urn, Nor Mounting Shaft • Those Who Never Will Return • Quiet Heroes of the Brawny Arm • Unselfish Workers in the Vineyard • Negro in Army Personnel • The Knockout Blow • Homecoming Heroes • Reconstruction and the Negro • The Other Fellow's Burden • An Interpolation • The New Negro and the New America

著者 Alison Sweeney は「シカゴ・ディフェンダー」の記者兼編集者。本書は、主に新聞や雑誌の戦争報道で構成されており、公式発表も少し加えられている。黒人の忠誠心、愛国心、勇敢さを賞賛し、軍隊における黒人兵の歴史も紹介している。

#### Volume 2

### Kelly Miller *History of the World War for Human Rights* (1919)

The Flash That Set the World Aflame • Why America Entered the War • The Things That Made Men Mad • The Sinking Submarine • Thwarting the U-Boat • The Eyes of Battle • War's Strange Devices • Wonderful War Weapons • The World's Armies • The World's Navies • The Nations at War • Modern War Methods • Woman and the War • The Terrible Price • The World's Rulers at War • The War's Who's Who • Chemistry in the War • Our Neighboring Ally • The Heroic Anzac • America Steps In • Uncle Sam Takes Hold • A German Crisis • Uncle Sam and the Neutrals • The Actions of the War • American Forces Become Factor • Americans Turn War's Tide • Victory and Peace • The Negro in the World War • The Disgrace of Democracy

著者 Kelly Miller はハーワード大学の社会学教授。人種問題に対して学者、大学人、批評家としての立場であったが、本書についていえば黒人兵についての主要な議論、論評が欠けているとされる。黒人については最終章にだけ扱われているだけで、全体においてもその不正確さが批判されてきた。

#### Volume 3

### Emmett J. Scott *Official History of the American Negro in the World War* (1919)

Loyalty and Democracy of the Negro (Secretary of War Newton Baker) • Tribute to the Negro Soldier (General John Pershing) • The Negro's Part in the War (Theodore Roosevelt) • How the Great War Came to America • The Call to the Colors • Official Recognition of the Negro's Interest • The Work of the Special Assistant • The Negro in the National Army • A Critical Situation in the Camps • Colored Officers and How They Were Trained • Treatment of Negro Soldiers in Camp • Efforts to Improve Conditions • Negro Soldiers of France and England • The Negro Combat Division • Citations and Awards, 92nd Division • The Story of "The Buffaloes" • Record of "The Old Fiftenth" • "The Eight Illinois" • The 371st Infantry in France • The Record of the 372nd • Negro Heroes of the War • The Negro Soldier as a Fighter • With Our Soldiers in France • Negro Music That Stirred France • The Negro in the Service of Supply • "With Those Who Wait" • German Propaganda among Negroes • How Colored Civilians Helped to Win • Negro Labor in War Time • Negro Women in War Work (Alice Dunbar-Nelson) • Social Welfare Agencies • Negro Loyalty and Morale • Did the Negro Soldier Get a Square Deal? • What the Negro Got Out of the War

著者 Emmett J. Scott は1897年からタスキーギでブッカー・T・ワシントンの個人秘書を、ワシントンが亡くなる1915年まで務めた人物。1917年の夏に起きた一連の出来事——セントルイス東部の暴動とそれに抗議するNAACPのサイレント・プロテスト・パレード、さらに起きたヒューストンでの暴動——を受けて、同年10月から陸軍長官ニュートン・D・ベーカーの特別補佐官に正式に就任。第一次世界大戦中の軍隊内の人種問題についても対応に当たった。陸軍省の記録や軍当局あるいは兵士の直接の通信に接していたことから、本書は情報のしっかりしたもの。その中身は、時系列に示した出来事、統計、部隊の記録に個人的な逸話を盛り込んでおり、特に戦争の任務における黒人の貢献ぶりを強調している。また、ベーカー陸軍長官、ジョン・パーシング総司令官、セオドア・ルーズベルト前大統領による序文が寄せられ、強力な後ろ盾を得ている。





## Part 2: Witness Accounts

第4巻から第5巻に収められた3タイトルはいずれも黒人の著者によるもの。客観的歴史記述というより、軍隊内での黒人についての評価や意見に沿って書かれた、黒人の実際の状況・体験を示している。第6巻から第7巻に収められた3タイトルは、黒人兵を率いた白人の司令官による著作。3作の著者いずれも、この時代の典型的な上位者ぶった態度を折々さらけ出しているが、黒人兵の戦争中における働きぶりについて、軍隊内の露骨な差別があるなかでも優れていたことを強く称賛している。

### Volume 4

#### Addie W. Hunton and Kathryn M. Johnson *Two Colored Women with the American Expeditionary Forces* (1920)

The Call and the Answer • First Days in France • The YMCA and Other Welfare Organizations • The Combatant Troops • Non-Combatant Troops • Pioneer Infantry • Over the Canteen in France • The Leave Area • Relationships with the French • Education • The Salvation of Music Overseas • Religious Life among the Troops • Reburying the Dead • Stray Days • Afterthought • Index

1920年刊行で、後方支援部隊に配属された大多数の黒人兵士たちへの娯楽や教育プログラムを提供することを主な任務としてYMCAからフランスに派遣された2人の黒人職員の体験に基づいたもの。著者Addie HuntonとKathryn Johnsonは派遣期間の1918年6月から1919年8月までの間の、フランスにおいて自分たち自身が見聞きしたこと、また彼女らが接した後方支援部隊の黒人についてのことを書き記していて、軍隊内、YMCA内での人種差別の状況をさらけ出している。

### Volume 5

#### Monroe Mason and Arthur Furr *The American Negro Soldier with the Red Hand of France* (1921)

Formation of Regiment • First Impressions of France • The Trenches • The Meuse Section • Verdun • From the Meuse to the Marne • The Champagne Drive • The Vosges Section • Homeward Bound

#### Charles H. Williams *Sidelights on Negro Soldiers* (1923)

The Call to the Colors • In Camp • The Negro Officer • Hopes and Fears • The Lure of the Uniform • The "Y" and Other Welfare Organizations • The Stevedore • The Ninety-Second Division • The Ninety-Third Division • Home-Fires

第5巻に収められた最初のタイトルの著者 Monroe Mason と Arthur Furr はともに黒人兵で、オハイオ、D.C.、コネチカット、テネシー、メリーランド、マサチューセッツの各州兵で構成された第93師団第372連隊の状況をよく示す内容。

2番目のタイトルの著者は、ハンプトン・インスティテュートの教員 Charles Williams。黒人兵のおかれた状況についての18か月に及ぶ調査の中での体験に基づいて書かれている。調査はFederal Council of Churches と Phelps-Stokes 基金の支援で行われたもの。



### Volume 6

#### Warner A. Ross *My Colored Battalion* (1920)

#### Chester D. Heywood *Negro Combat Troops in the World War: The Story of the 371st Infantry* (1928)

Organization and Training in the United States • Departure Overseas and Training in France • In the Trenches • The Champagne Offensive • In the Vosges • After the Armistice and Home

Warner Ross はインディアナ州の法律家で第92師団所属の第365部隊少佐に任じられた人物。第365部隊は主にテキサス州とオクラホマ州から招集した黒人兵で構成されていた。優れた統率力が称賛された人で、1920年に出した回顧録は、彼の配下の黒人兵に対して非常に好意的な記述内容で、第92師団の黒人兵に繰り返された理不尽な批判(それは主にブロード將軍から発せられていた)によって生まれた世評に対して意気盛んな擁護を示した。Chester Heywood は公務員から第371部隊の大尉となった人物。第93師団内で唯一の黒人招集兵部隊で、ノース・カロライナ、サウス・カロライナを中心に南部諸州で招集した黒人兵で構成されていた。本書では、訓練による進歩や交戦時の経験を話題としていて、生じた問題の多くは、白人士官(その多くは南部出身)の経験不足や人種差別的態度に由来していることを考慮する余地ありとしている。

### Volume 7

#### Arthur W. Little *From Harlem to the Rhine: The Story of New York's Colored Volunteers* (1936)

Humble Beginnings • Recruiting • At the State Camp Near Peekskill • Memorial Day, 1917 • The Call of the President • Camp Whitman • On Guard • Spartanburg • The Port of Embarkation • Wrecked • A Dreadful Three Weeks • Fire • Collision • The Voyage • St. Nazaire • The Colonel's Story • The Band Tours France • Given a New Name • Early Days with the French • My First Anniversary • Death Valley: Our First Shelling • Our First Tour in the Trenches • Our First Experience in No-Man's Land • The Technical Side of Trench Warfare • On Our Own • Color Sergeant Cox Dips the Stars and Stripes • Maffreccourt • The Battle of Henry Johnson: Our Second Tour in the Trenches • Preparing for a German Offensive • Our Last Month in Bois d'Hauzy • Waiting for the German "Victory Drive" • Gouraud's Triumph • The Beginnings of the Winning of the War • Lieutenant Worsham Killed in Action • A Long Hike: Training • The Local Infantry Attack • Our Part in the Battle of the Meuse-Argonne • Sechault • The Vosges Mountains: Preparing for a New Offensive • The Armistice • First to the Rhine • The Croix de Guerre Pinned to Our Colors • Homeward Bound • Our Great Parade • Mustered Out • "Ah'm er Go'in' Back ter Mah Reg'lar Job"

第93連隊は各隊ともフランス軍のもとに配備されたが、黒人の第15ニューヨーク州兵隊からなる第369部隊(やがて"Harlem Hellfighters"と呼ばれるようになる)の戦時下の話が書かれたのが Arthur Little 少佐による本書。著者は本部隊の他の上級将校のほとんどと同じように、北部白人、教養のある戦闘経験豊富な州兵生え抜きの人物。1936年に刊行され、今では基本書として評価される。なお、第369部隊の音楽隊は傑出したラグタイム・ミュージシャンで興行主でもあったジェームズ・リーズ・ヨーロッパに率いられていた。ヨーロッパは、ジャズ音楽を全米そしてヨーロッパ、特にフランスでの広まりに多大な貢献をしたことでも知られている。音楽隊は1919年2月17日の、ニューヨーク5番街での第369部隊帰国パレードを先導し、黒人からも白人からも熱狂的に歓迎された。シカゴなどでも帰還兵による盛大なパレードが催された。





# アメリカ黒人兵士たちの二つの戦争： アメリカ人として、そして黒人として…



藤永 康政 ● 山口大学准教授

アメリカが迎えた最初の国家総動員戦である第一次世界大戦、これはアメリカ黒人にとって、アメリカ社会、そして世界における自らの立ち位置を自問する一大契機となった。「世界を民主主義のために安全にする」、ウィルソン大統領はこう述べて戦争の大義を示したのだが、アメリカ黒人してみれば、民主主義とはアメリカ国内においても実現されていないものであり、わざわざ海を越えて「守り」に行くようなものではなかった。そこで、当時アメリカ社会党の若き活動家で、その後、「ワシントン大行進運動」の指導者として有名になる A・フィリップ・ランドルフはこう反論した。「世界を民主主義のために安全にしたいなら、ウィルソン大統領本人が戦地に行けばいい、われわれはむしろジョージアを民主主義にとって安全にする」。他方でしかし、あからさまな反戦の姿勢を採ることも政治的・社会的なリスクがつきまとい、そして何よりも、「民主主義」が約束する価値そのものは、アメリカ黒人も否定できるものではなかった。ゆえに、W・E・B・デュボイスは、当時広く読まれていた全国黒人向上協会の機関誌「クライシス」で、こう号令を下す。「現下の戦争が続く限り、我々に特別な不満はしばし忘れ、民主主義のために闘っている同盟国の諸国民たちや白人の同胞と肩を並べて隊列を固めようではないか」。

このように、黒人エリートの意見は二分されていたのであるが、従軍した黒人兵が 40 万人に上ったことに示されているように、ランドルフ流の反戦姿勢が多くの支持を得ていたわけではなく、その主流はあくまでも戦争に貢献することで「共和国市民としての価値」の証を立て、その後に政治社会の変革を目指す「路線」を採った。そのような熱く、またある意味では絶望的ですが希望を抱えて従軍した黒人兵を待っていたのは、白人至上主義が蔓延する軍隊での劣悪な扱いと人種隔離であった。ここで「黒人兵」たちは、アメリカ人として、そして黒人として二つの戦争を闘うことを強いられることになる。

その一方、第一次世界大戦の「黒人兵」といえば、フランス軍に

組み入れられることで戦闘部隊として活躍する機会を得、その武功からフランスより叙勲されたニューヨーク第 369 連隊（通称「ハーレム・ヘル・ファイターズ」）の活躍が有名である。また、ジェームズ・リース・ヨーロッパ率いるその軍楽隊は、ヨーロッパの大衆に初めてジャズの調べを届けた楽団としても知られており、そのような華々しい活躍は、聞くところによると、現在、ウィル・スミスが映画化に着手しているようである。このような黒人兵たちの武功は、黒人大衆のナショナリスト的矜持を刺戟することになった。「アフリカはアフリカ人のもの」と呼号するガーヴェイ主義が 1920 年代に擡頭することの遠因のひとつは、アメリカ人として、そして黒人として関わるようになった第一次世界大戦の戦場にあったのだ。

ここに復刊されるのは、このような第一次世界大戦の黒人部隊、92 師団と 93 師団に関する貴重な史料である。これらは、人種主義への批判のみならず、当時の黒人にとっての愛国心の有り様、さらには萌芽期にあるブラック・ナショナリズムなど、第一次大戦が狭義の国家紛争以外のところでもったきわめて貴重な側面に光りを当ててくれるであろう。

以下、その内容を簡単に説明しよう。Part 1 に組まれる第 1 巻から第 3 巻までは、当時のアメリカの文壇で活躍していた黒人エリートや知識人たち、それぞれ、ジャーナリストの W. Allison Sweeney、ハーワード大学の黒人教授 Kelly Miller、陸軍省特別補佐官の任にあった Emmett J. Scott による従軍記録である。陸軍省からの協力を得て関連情報や資料が集められたこれら三巻が、比較的オフィシャルな性格の強いものだとすれば、第 4 巻に始まる Part 2 ではその記録者の焦点は戦場にズームしていく。第 4 巻の著者 Addie E. Hunton と Kathryn M. Johnson は、女性参政権運動やソシアル・ワーカーとしての活動を持つ人物であり、同書には、YMCA の事業の一環として欧州派遣軍に従軍した経験が綴られている。彼女ら黒人女性活動家のフェミニストとしての感性や視点が、「人種意識の覚醒」を促したグローバルな大戦と複雑に交錯する諸相を浮かびあがらせてくれるであろう。第 5 巻所収の文献のひとつには、欧州の激戦地での黒人兵の生活が、部隊編成からアメリカ帰還までの全期間にわたって記録されており、またもうひとつには、大学の保険衛生局長を務めた人物の目から、戦闘のみならず兵営での衛生・福利厚生といった側面が細かに記載されている。第 6 巻所収の文献は著者が黒人部隊で将校を務めた「白人」である点に特質がある。これら白人将校の人種観も、同時代における「人種」の意味を分析するうえで興味深い史料となるであろう。第 7 巻は、「ハーレム・ヘル・ファイターズ」で大隊長を務めた人物による日誌に近い記録であり、この有名な黒人連隊の現存する記録のなかでもっともまとまったものである。



【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】